

親子で楽しむ金魚飼育

～飼育のポイントと楽しみ方～

あなたにも飼える！金魚飼育のポイント

金魚は、江戸時代には既に、ふつうの家でも飼われていました。特別な器具がなくても、ポイントを押さえれば、ちゃんと飼うことができます。飼育のポイントを学んで、金魚に長生きしてもらいましょう。

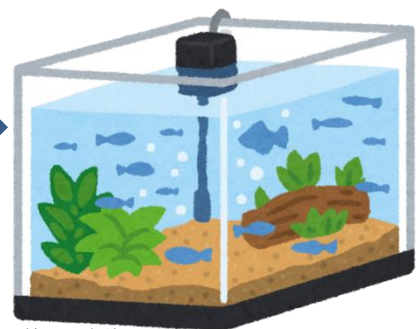
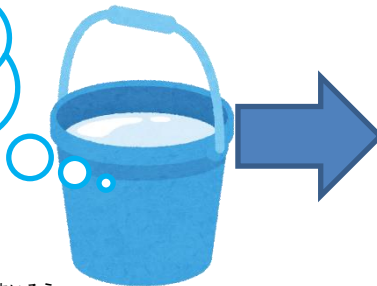
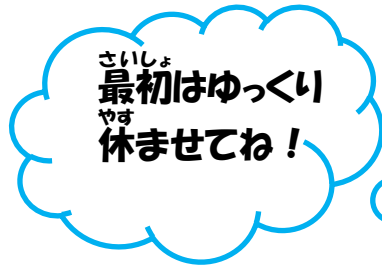


1. 入れものと置き場所

●最初の3～4日間はバケツなどで休ませてあげよう

持ち帰った金魚は、家までの長旅で疲れています。最初の3～4日間は、人影や足音などでビックリすることのないように、バケツなどのまわりが見えない入れもので、ゆっくり休ませてあげましょう。最初はビクビクしたり、暴れたりするかもしれませんが、数日のうちに体力も回復して、落ち着いてきます。

バケツは、水かえなどにも使うので、必ず準備してください。



●落ち着いてきたらガラスの水槽でOK

金魚が落ち着いてきたら、ガラスの水槽に入れても大丈夫です。最初からガラスの水槽で飼うときには、最初のうちは、できるだけビックリさせないように心がけましょう。

●水槽の置き場所を考えよう

バケツなどで休ませている間に、水槽を置く場所を考えておきましょう。水を入れた水槽は、かなりの重さになります。水槽を置いても問題のない台を考えましょう。また、水かえなどのときに、まわりに水がはねることもあります。電気製品や重要な書類の近くは避けましょう。

金魚は、温度の変化が激しいと、体調を崩しやすくなります。直射日光やエアコンの風が直接当たらない場所を選びましょう。

2. 水

●人が飲める水なら大丈夫

水道水や井戸水など、人が飲める水なら、金魚を飼うことができます。ただし、水道水の場合は、できるだけカルキを抜いてから使いましょう。バケツに汲んで一晩置いておけば、概ねカルキは抜けます。



完璧を目指すなら、2日以上汲み置きしておくか、急ぐときには、ホームセンターのペットコーナーに売っているカルキ抜きを使えば安心です。



●0.5%塩水は体力の回復に効果

最初の3～4日間や、元気がない時には、約0.5%の塩水で過ごすと、体力が回復しやすくなります。水1リットルあたり5グラム、だいたい小さじ(5cc)すりきり1杯の塩を入れます。この水は、なめるとほんのり塩味を感じる塩加減です。



水1リットルあたり
小さじ(5cc)すりきり1杯

3. 酸素

●1～2匹なら何もなくてもOK

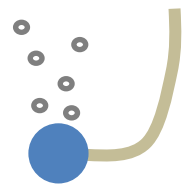
酸素は、何もしなくても、水面から水の中に溶け込んでいきます。5リットルくらいのバケツの場合、1～2匹なら、ブクブク(エアポンプ)などが無くても大丈夫です。

●鼻上げは酸素不足のサイン

お腹がすいていないのに、水面でパクパクと「鼻上げ」していたら、酸素不足のサインです。ブクブクやろ過器で酸素供給したり、大きな容器に入れかえることを考えましょう。

●ブクブクで酸素供給

ペットコーナーで売っているブクブクを使うと、水の中に効果的に酸素を溶け込ませることができます。ろ過フィルタと一体となったブクブクを使えば、水もキレイになります。このとき、流れが強すぎると、金魚が疲れてしまいます。水が全体的にゆっくりかき混ぜるくらいに、空気の量を調整しましょう。



●ろ過器で酸素供給？

ろ過器を使えば、水がかき混ぜられるので、水面から酸素が溶け込みやすくなります。ろ過器には、水槽の上に置くタイプや、水槽の壁に掛けるタイプなどがあります。ブクブクよりも音が静かで、水もキレイになるのでおすすめです。

4. エサ

●最初の3～4日間はエサをやらないで！

持ち帰った金魚は、体力が落ちて、内臓の働きも弱くなっています。金魚は、食べたものを消化吸収するときにも、体力を使います。ですから、バケツなどで休ませている**最初の3～4日間は、エサをやってはいけません**。最初に内臓をしっかり休ませないと、すぐに死んでしまうことが多いのです。

●基本は5分で食べ終わる量

3～4日間、しっかり休ませてあげたら、ちよつとずつエサをあげます。

最初の日は、ちゃんと食べる場所を確認しながら、1粒（枚）ずつエサを入れます。全員が2～3粒（枚）食べたところで終わりにします。

次の日からは、1日に約1.5倍ずつ、毎日だんだんとエサの量を増やしていきます。**5分で食べ終わる量が、1回のエサの目安**です。



●大きく育てるか、小さいままか

金魚は、5分で食べ終わる量を、1日に1回食べれば、健康に生きていけます。この量だと、金魚は小さいまま、あまり大きくなりません。

5分で食べ終わる量を、1日に3～4回食べさせると、どんどん大きく育ちます。ただし、エサが多いと、水のヨゴレがたまりやすくなりますので、水かえを頻繁にした方が良いでしょう。また、体が大きくなると、水槽がきゅうくつになってくるので、大きな水槽が必要になってきます。

●エサの種類

ペットコーナーに行くと、金魚のエサがたくさん並んでいます。粒状のエサは、いろいろな大きさがあるので、お家の金魚が食べられる大きさのエサを選びましょう。フレーク状のエサは柔らかいので、小さな金魚でも食べられます。

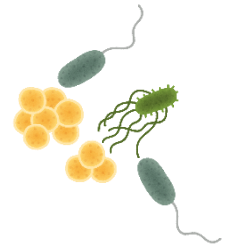
金魚のエサには、育成用、色揚げ用、健康志向など、いろいろな種類があります。目的に合わせて使ってみてください。

5. 水のヨゴレ

●水の白濁り

金魚のフンや食べ残ったエサなどは、目に見えないほど小さな「微生物」たちのエサになります。微生物たちは、金魚のフンや食べ残しをどんどん食べて分解します。そして、微生物の数がどんどん増えてくると、水が白っぽく濁ってきます。

微生物たちも、酸素を使います。このため、微生物たちが多くなりすぎると、酸素不足になることがあります。また、水が濁っていると、せっかくの金魚たちの姿がよく見えません。水が濁ってきたら、水をかえてやりましょう。



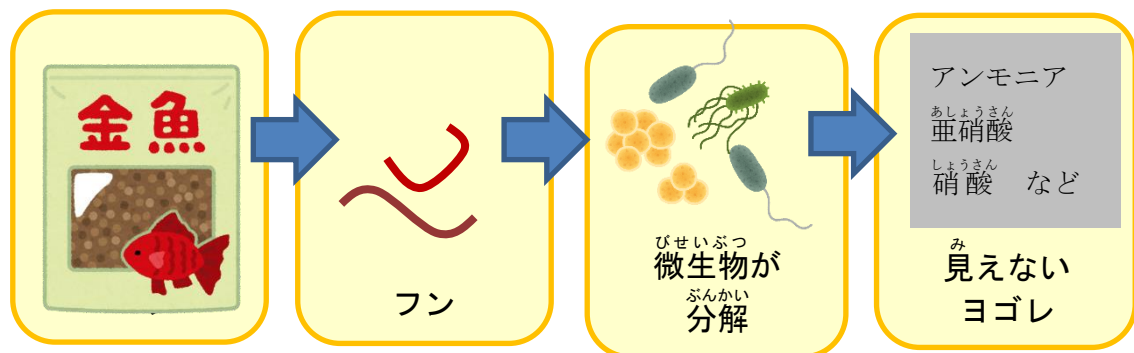
●「見えないヨゴレ」は金魚の大敵

水槽の水のヨゴレは、「白濁り」のように、見てわかるヨゴレではありません。

「アンモニア」や「硝酸」など、見ただけではわからないヨゴレもあります。

微生物たちが、金魚のフンや食べ残しなどを食べて分解した結果、一見キレイに見える水でも、「見えないヨゴレ」が、確実に水の中にたまってきます。

「見えないヨゴレ」が水の中にたくさんたまると、金魚の体調が悪くなり、死んでしまうこともあります。「見えないヨゴレ」は、金魚の大敵なのです。



「見えないヨゴレ」のたまる早さは、水の量や金魚の数や大きさ、エサの量などで大きく変わってきます。水の量が少ないと、「見えないヨゴレ」は、すぐにいっぱいになってしまいます。また、金魚が多いほど、金魚が大きいほど、エサが多いほど、「見えないヨゴレ」は、早くたまります。

たまった「見えないヨゴレ」は、水かえをすることできれいにします。水かえは、最初の1か月間は1週間に1回、その後は微生物たちが安定してくるので、1か月に1回が目安です。ただし、「見えないヨゴレ」のたまり方は、エサの量などの飼育方の状況によって変わってきます。金魚に長生きしてもらうためには、状況に応じて水かえをすることが大切です。

●活性炭は使い捨て

活性炭には、水槽の水の「見えないヨゴレ」を吸い取って、水をきれいにする効果があります。最初の1か月間は「アンモニア」がたまりやすいので、「アンモニア」をしっかり吸い取る活性炭を使うと良いでしょう。

その一方で、活性炭を長期間使っていると、いちど吸い取った「見えないヨゴレ」を、水かえしたばかりの新しい水の中に戻してしまい、水を汚す原因になることもあります。活性炭は、1か月ほど使ったら捨てるようにしましょう。

●貝殻やサンゴが「見えないヨゴレ」に効果？

「見えないヨゴレ」のひとつ、「硝酸」などの酸がたまってくると、水が酸性になってきて、金魚が急に全滅することがあります。

ペットコーナーに売っている「カキガラ」や「サンゴ砂」には、水が酸性になるのを防ぐ効果があります。活性炭を捨てた後で、その代わりにろ過器や水槽に入れておくと安心です。鶏などの卵の殻にも同じ効果があります。



ただし、貝殻などを入れておいたとしても、数か月も水をかえずにしていると、貝殻などからたくさんのカルシウムが溶け出して、別の悪影響を及ぼすことがあります。貝殻などを入れていたとしても、やはり、1か月に1回程度は、水をかえることが重要なのです。

●緑色の濁り（青水）

ベランダや庭の池など、明るい場所で金魚を飼っていると、水が緑色に濁ってることがあります。水の中の植物プランクトンが増えた結果、水が緑色に見える「青水」になるのです。植物プランクトンは、「見えないヨゴレ」を吸い取ってくれたり、金魚のエサになったり、金魚の色が鮮やかになったり、金魚が病気になりにくくなったり、いろいろと良い面があります。なので、青水で金魚を飼う人も多いです。

しかし植物プランクトンは、何かのきっかけでの調子が悪くなると、底に沈んで腐り、ヘドロになることがあります。植物プランクトンが腐るときには、微生物たちが水中の酸素をどんどん使ってしまうので、酸素不足になることもあります。

青水で金魚を飼うときには、大量のヘドロがたまることのないように、たまに水を入れかえて、青水を薄めてください。

●こんな時には水をかえよう

水かえは、1か月に1回が目安ですが、泡がなかなか消えなかったり、金魚に元気がなかったりなど、水槽の様子がいつもと違うようなら、水をかえてみてください。

6. 元気かな？

●元気の金魚の泳ぎかた

元気な金魚は、背びれをピンと立てて、ピッ、ピッ、と尾びれを振って泳ぎます。スッと泳いだと思ったら、胸鰭を開いてピタッと止まります。

こうした泳ぎを観察しながら、金魚たちが元気かどうか、毎日確認しましょう。



●金魚も個性的

金魚にも、一匹、一匹、個性があります。ノンビリ屋さんや臆病者、オッチョコチョイや、いじめっ子の金魚もいます。元気がないように見える金魚も、ただのノンビリ屋さんかもしれません。じっくり観察すると、それぞれの性格が分かるようになってきます。そうすると、金魚たちとの生活が一段と楽しくなります。金魚たちの性格が分かってきたら、一匹ずつ、ぴったりの名前をつけてください。



ドキンちゃん



社長

マイケル



●体調が悪いとき

金魚は、体調が悪くなると、動きが遅くなり、水槽の隅でじっとしていたり、流れに流されたりします。エサも欲しがらなくなります。

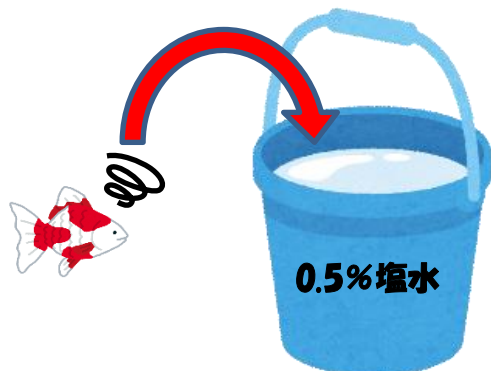
おかしいな？と思ったら、

①バケツなどの別の容器に、0.5%塩水を用意して、体調の悪い金魚を移す。

②ある程度元気になるまで、エサはやらない。

この2つをやってみて、2日ほど様子を見てください。それでも回復しないようなら、寄生虫症などの病気の可能性があります。金魚用の薬を置いてあるお店で相談してみてください。また、水産試験場に連絡いただければ、できる範囲で一緒に対策を考えます。

体調が悪い時には、0.5%塩水のバケツに移す。エサはやらない



7. 金魚の飼育用具と飼い方の例

●金魚の飼い方いろいろ

金魚を飼うときには、いろいろなやり方があります。ここでは、そのいくつかを紹介しします。

●超シンプル！「バケツで金魚」

【必要なもの】



バケツ2個



エサ



塩を量る小さじ

金魚は、バケツだけでも飼うことができます。
水産試験場では、7リットルのバケツ（水は約4リットル）に、金魚2匹を入れて、1年以上飼っています。ブクブクも何もありません。

バケツを2つ並べて置いて、片方には金魚を入れて、もう片方は、水道水を汲み置きしています。金魚たちには、毎週月曜日に、隣に置いたきれいなバケツに引っ越しをしてもらいます。汚れたバケツは、中を洗って、水道水を汲み置きしておきます。



引っ越しの時には、素手でそっとくるんで、隣のバケツに移します。

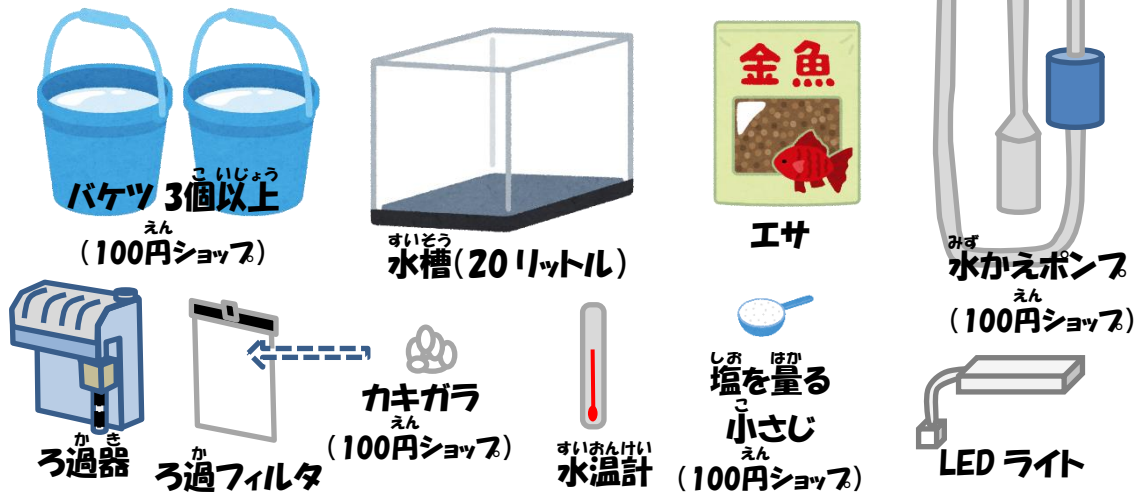
エサは、5分で食べ終わる量を毎朝あげますが、土曜日と日曜日はエサをあげません。エサの時間にバケツを見ると、金魚たちは、こっちを向いて、空腹アピールしてきます。



汚れたバケツは、きれいに洗って、水道水を汲んでおく

●スタンダード？ きんぎょすいそう れい 金魚水槽の例

【必要なもの】



20リットルの水槽に、リュウキン4匹、ス
イハウガン1匹を入れています。ろ過器の
フィルタは、中の活性炭を捨てて、代わりに
カキガラを入れています。活性炭の代わりに
カキガラを入れてから、金魚が死ぬことが、
ほとんどなくなりました。

エサは、毎朝1回、5分で食べ終わる量を
あげています。

1か月に1回、水かえポンプを使って水か
えをします。金魚の背中が出るくらいまで、古い水をバケツに移して捨ててから、汲
み置きしておいた水道水を、もとの量まで入れます。

ろ過器のフィルタが詰まると、金魚の元気がなくなるので、フィルタをもみ洗いし
て、何回も使います。

水槽にはタニシを入れています。タニシは水槽の壁を掃除してくれます。



●その他の飼い方

バケツやガラス水槽のほかにも金魚を飼う方法があります。

昔ながらの金魚鉢やスイレン鉢、庭の池など、いろいろ試し

てみたいですね。他にも、衣装ケースで飼う人や、セメントを混ぜるための「プラフ
ネ」で飼う人もいます。どんぶり金魚という飼い方もあります。ただし、外で飼うと
きは、ネコや鳥などに襲われないように注意しましょう。

また、最近では、植物の栽培と魚の飼育を組み合わせた、「アクアポニックス」が
できる水槽などもあります。ぜひ、いろいろ試してみてください。

